

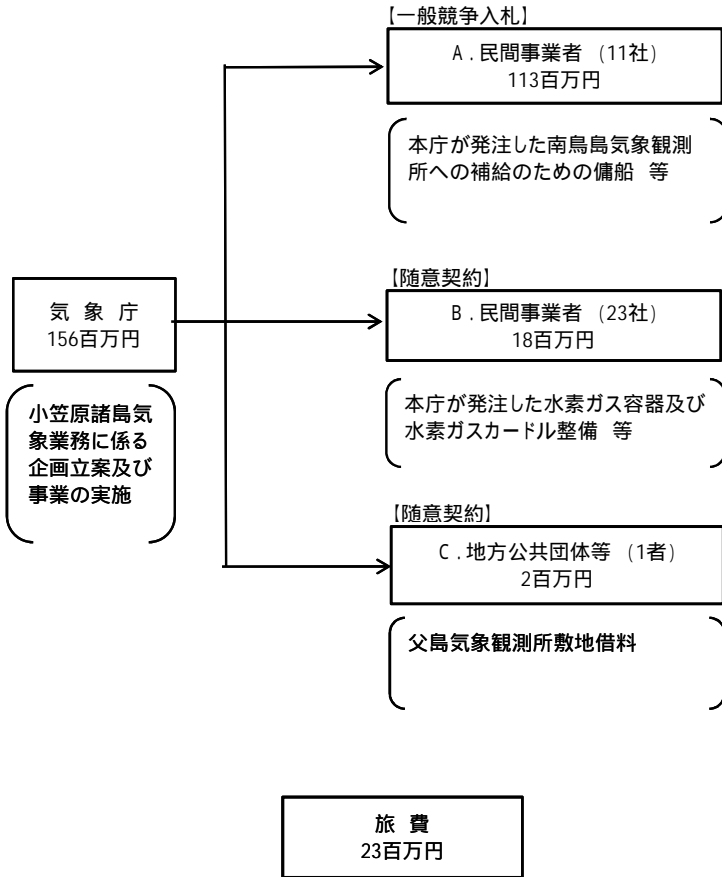
平成23年行政事業レビューシート

(国土交通省)

<b>事業名</b>	小笠原諸島気象業務		<b>担当部局</b>	気象庁地球環境・海洋部		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	昭和43年度～		<b>担当課室</b>	地球環境業務課		<b>課長</b>	高野 清治	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	10 自然災害による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する				
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	気象業務法(第2条第4項1)		<b>関係する計画、通知等</b>	小笠原諸島における気象業務の暫定実施に関する訓令				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	太平洋上の気象観測空白域を埋める数少ない観測地点である小笠原諸島(父島、南鳥島)において気象観測を実施し、台風や地震津波等の自然災害による被害の防止・軽減を図る。							
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	台風や津波等の被害軽減を目的とし、父島や南鳥島気象観測所では地上・高層気象観測、地震津波観測を実施している。							
<b>実施方法</b>	直接実施	業務委託等	補助	貸付	その他			
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	162	161	161	156	156	
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	0	0	-2	2		
	執行額	162	161	159	158	156		
	執行率(%)	100.0%	100.0%	98.4%				
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	20年度	21年度	22年度	目標値(27年度)
	台風中心位置の予報誤差を平成27年までに260kmとする。			km	298	289	302	260
			達成度	%	87	90	86	
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		算出根拠	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	高層気象観測(父島)			回	786	757	748	( 730) ( 732)
	高層気象観測(南鳥島)			回	745	771	738	( 730) ( 732)
	地上気象観測通報数(父島)			回	8,760	8,760	8,760	( 8,760) ( 8,784)
	地上気象観測通報数(南鳥島)			回	8,760	8,760	8,760	( 8,760) ( 8,784)
<b>単位当たりコスト</b>	8.9 (千円/回)		算出根拠	H22執行額 / H22地上気象観測通報数				
平成23・24年度予算内訳	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	20	20	・高層気象観測用消耗品の国交省統一単価改定による減 0.2百万円				
	観測予報庁費	136	133					
	土地建物借料	2	2					
	計	158	156					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況		広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
		国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
		不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途		支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
		単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績		他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	昭和43年6月26日小笠原諸島返還に伴う「小笠原諸島における気象業務の暫定実施に関する訓令(気象庁訓令9号)」により、気象業務をつかさどらせるため、父島及び南鳥島に気象観測所が置かれ、気象官署観測業務規程及び気象報通報規程の規程を準用して、観測及び通報業務を実施している。
		適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
		類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・太平洋上の数少ない観測点である父島や南鳥島における気象観測は、我が国の台風や津波等の被害軽減に必要不可欠である。また、その観測データは、我が国から世界気象機関の通信網によりリアルタイムで通報され、世界各国の気象機関における気象予測に活用されている。</p> <p>・平成22年度は、競争性の確保等効率的な調達方法の実施に努めた。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		引き続き、競争性の確保、スケールメリットを活かした一括購入の実施等調達方法の改善を図るべき。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>・国交省統一単価改訂による減。</p> <p>・チームの所見を踏まえ、引き続き、競争性の確保、スケールメリットを活かした一括購入の実施等調達方法の改善に努める。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

資金の流れ  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する)(単  
位:百万円)



**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロッ  
 クごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A.(株)日新			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
借料	南鳥島気象観測所への補給のための備船	34			
計		34	計		0
B.(株)鈴木商館			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水素ガス容器及び水素ガスカードル整備等	4			
消耗品費	水素ガスの購入(単価契約)等	2			
計		6	計		0
C.関東森林管理局			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
借料及び損料	父島気象観測所敷地借料	2			
計		2	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日新	南鳥島気象観測所への補給のための備船	34	1	非公表
2	明星電気(株)	GPSゾンデ(RS-06G型)他の購入(単価契約)	21	1	99.67
3	(株)鶴見精機	GPSゾンデ(LMS6型)の購入(単価契約)	21	1	99.86
4	(株)中村工業商会	発動発電機用部品 の購入	9	2	91
5	ヤンマーエネルギーシステム(株)	南鳥島気象観測所常用発電設備の発動発電機等点検整備	7	1	非公表
6	(財)防衛弘済会	気象庁南鳥島気象観測所給食業務	7	1	非公表
7	富士電機システムズ(株)	南鳥島気象観測所常用発電設備の発電機及び受変電設備点検整備	6	1	非公表
8	トーテックス(株)	600gゴム気球他の製作(単価契約)	4	2	非公表
9	小笠原海運(株)	父島気象観測所への水素ガスカードルの輸送(単価契約)	3	1	非公表
10	(株)鈴木商館	水素ガス貯蔵・消費施設定期点検整備他(父島気象観測所)	1	2	非公表

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)鈴木商館	水素ガス容器及び水素ガスカードル整備 等	6	随意契約	
2	明星電気(株)	気象衛星通報局装置(DCP)等点検調整他 等	2	随意契約	
3	(株)テスコ	南鳥島気象観測所 空調機点検整備 等	2	随意契約	
4	(株)鶴見精機	高層気象観測装置の定期点検整備およびアデス中継ソフトウェア改修(父島気象観測所)	1	随意契約	
5	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ	船舶衛星電話料(南鳥島)	1	随意契約	
6	(株)コントランス	南鳥島気象観測所 車両整備	1	随意契約	
7	(株)飯塚	南鳥島気象観測所発電設備ばい煙排出量調査	1	随意契約	
8	鹿島建設(株)	南鳥島気象観測所自動火災報知設備配線等新設工事	1	随意契約	
9	(株)山一商事	産業廃棄物処理	1	随意契約	
10	(有)大村電気設計	自家用電気工作物の保安業務(父島気象観測所)	1	随意契約	

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	関東森林管理局	父島気象観測所敷地借料	2	随意契約	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					